

担当センター名		中国地方ESD活動支援センター
プロジェクトのテーマ		脱炭素社会に貢献する学校断熱のSDGs探求学習プロジェクト 「津和野高校断熱改修プロジェクト」
プロジェクト期間		2021年8月～2022年2月予定
達成目標		①脱炭素社会のための探究学習プログラム ②開かれた学校のための協働 ③学校または関連施設の断熱化
コアメンバー(団体・個人)		角俊一（島根県環境生活部環境政策課 しまねエコライフ推進グループ 企画員） 阿部潤（島根県環境生活部環境政策課 GL） 葭矢崇司氏（公益財団法人しまね自然と環境財団 環境事業課長） 上園由紀（縁パワーしまね コーディネーター） 宮島忠史（島根県立津和野高等学校 校長） 阿部志朗（島根県立津和野高等学校 教頭） 川瀬ありさ、木原雛子、鯉淵有貴、四ノ宮有理沙、竹原匠、藤山海斗（島根県立津和野高等学校 2年生） 石橋洋垂（津和野町環境生活課 係長） 玉木愛実（一般社団法人つらの学びみらい） 上瀧口琴代（津和野町環境パートナーシップ会議 副会長） 藤山勝、藤村和志（建築士、大工） 畔柳知宏（一般社団法人津和野まちづくり 代表理事） 大江健太（合同会社高津川デザイン工房 代表社員） 長嶺常盤（TOKI-WORKS マネージャー） 松倉慎治（一般社団法人島根県建築士会益田支部 部長） 舟山宏輝（まちのオフィスQ+） 竹内昌義（東北芸術工科大学 教授）
	勉強会①	【実施日】 令和3年8月4日（水） 【場 所】 オンライン会議 【参加者】 5名（島根県環境政策課、公益財団法人しまね自然と環境財団、縁パワーしまね） 【内容等】 分科会活動の企画骨子について、関係者間のねらいのすり合わせや実施内容等を協議した。
	勉強会②	【実施日】 令和3年8月19日（木） 【場 所】 オンライン会議 【参加者】 14名（島根県環境政策課、公益財団法人しまね自然と環境財団縁パワーしまね、津和野高校・地元関係者） 【内容等】 分科会活動を担うコアメンバーと津和野高校の関係者の顔合わせを行い、お互いの自己紹介や活動趣旨の共有、企画の方向性やスケジュール等について協議した。
	勉強会③	【実施日】 令和3年10月29日（金）16:00～17:00 【場 所】 島根県立津和野高等学校（島根県鹿足郡津和野町） 【参加者】 21名（津和野高校生徒・教員、津和野町環境生活課、地元協力者、島根県環境政策課、公益財団法人しまね自然と環境財団、縁パワーしまね） 【内容等】 第1回実行委員会を開催し、実行委員会の立ち上げや関係者の顔合わせ、プロジェクトの実施内容、役割分担、スケジュール、予算計画等について協議を行った。

実施内容	勉強会④	<p>【実施日】 令和3年11月19日（金）</p> <p>【場 所】 オンライン会議</p> <p>【参加者】 5名（津和野高校教員、島根県環境政策課、公益財団法人しまね自然と環境財団、縁パワーしまね）</p> <p>【内容等】 11月6日（土）・7日（日）の実践活動のふりかえりを行うと共に、その後の学校の様子を共有し、改修した教室のお披露目や温度計測のモニタリング等について協議した。</p>
	勉強会⑤	<p>【実施日】 2022年2月予定</p> <p>【場 所】 島根県立津和野高等学校</p> <p>【参加者】 実行委員</p> <p>【内容等】 第2回実行委員会として、プロジェクトのふりかえりや評価を行う。</p>
	実践活動①	<p>【実施日】 令和3年10月29日（金）</p> <p>【場 所】 まちのオフィスQ+（島根県鹿足郡津和野町）、オンライン会議併用</p> <p>【参加者】 23名（会場：15名、オンライン：8名）</p> <p>【内容等】 「大人のための環境夜学Vol.1」として、地域住民に地球温暖化の現状や温暖化対策の事例について話題提供すると共に、津和野町への影響や町内で取り組まれている活動について意見交流を行った。</p>
	実践活動②	<p>【実施日】 令和3年11月6日（土）・7日（日）</p> <p>【場 所】 島根県立津和野高等学校（島根県鹿足郡津和野町）</p> <p>【参加者】 92名（生徒、実行委員、一般）</p> <p>【内容等】 津和野高校の教室を断熱改修するため、天井や造作壁への断熱材のはめ込み、内窓の設置について、地元協力者の指導を受けながらDIYすると共に、有識者からのレクチャーを通して断熱による温暖化対策への理解を深めた。また、生徒自らによるワークショップ運営やアーカイブ映像の撮影を行った。</p>
	実践活動③	<p>【実施日】 2022年2月6日（日） 予定 ※延期が濃厚</p> <p>【場 所】 島根県立津和野高等学校</p> <p>【参加者】 生徒、実行委員、一般、協力者・寄付者等</p> <p>【内容等】 断熱改修した教室や生徒が撮影・編集したアーカイブムービーのお披露目。</p>
成果	目標達成度	<p>①脱炭素社会のための探究学習プログラム ⇒脱炭素社会の実現に向けて行動と貢献を生み出すプロセスとして、身近な問題に気づく（断熱と温暖化対策と学校生活の繋がりを学ぶ）、解決策としての断熱改修に取り組む（仲間を集めてプロジェクトを運営する）、取組結果を評価する（断熱改修の効果や成果を見える化する）ことを体系化した環境学習（探究学習）プログラムを作成した。</p> <p>②開かれた学校のための協働 ⇒高校を舞台としたプロジェクトであるものの、地域全体で地球温暖化問題への理解を深め、地域のマルチステークホルダーがそれぞれの立場からできることを持ち寄り、次世代のニーズに応えるための学びあいと協働を実施した。</p> <p>③学校または関連施設の断熱化 ⇒まずは取り組みながら学び考えることを通して、生徒や協力者がDIYで自ら作業し、津和野高校の教室（3年生の教室1クラス）を断熱改修した。（※12～1月に温度計測を行い、断熱効果については検証中。）</p>

	<p>プロジェクト関係者(コアメンバー、その他の参加者、実践活動の対象者)の変容</p>	<p>プロジェクトの学習プロセスにおいて、どの段階かは人それぞれであったが、課題の自分ゴト化や主体性の成長が見られ、それが協働という形となった。</p> <p><コアメンバーの感想></p> <ul style="list-style-type: none"> * みんなが楽しそうなを見て苦勞してきた甲斐があった。 * 津和野高校だけでなく県外にもどんどん発信したい。 <p><生徒の感想></p> <ul style="list-style-type: none"> * 大人の人たちにも手伝ってもらいながら色々できた。 * 来年社会人になるが、いろんなことにチャレンジしたい。 <p><一般参加者の感想></p> <ul style="list-style-type: none"> * 2050年にゼロカーボンなんて無理と言っていたが、参加させてもらって、そんなことを言ったらダメと思った。
<p>今後の課題</p>		<p>学校としては1クラスで終わるのではなく、他の教室も断熱改修を続けていきたい意向や、生徒からは教室だけでなく職員室も断熱改修すべきという意見が出ているが、費用・労力面から考えると、単純な継続は難しい。ただし、生徒や学校がプロジェクト（特に資金調達）を継続していく主体性や、それらを支える運営体制の仕組化などできれば、継続・発展性も見込める。また、政策としてこのような取組を支援できれば脱炭素社会の実現に向けた学習と行動を同時に加速することができると思う。</p>